



大阪対がん協会報

2015年5月号

公益財団法人 大阪対がん協会

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18 朝日新聞社内
(中之島フェスティバルタワー 15階)

TEL 06-6201-8029 FAX 06-6201-8615

E-mail : office@osakacancer.jp HP : http://www.osakacancer.jp

がん研究助成奨励金

今年も若手研究者 15人に贈呈



大阪対がん協会（会長＝堀正二・大阪府立成人病センター名誉総長）は3月10日、朝日新聞大阪本社アサコムホールで、平成26年度がん研究助成奨励金の贈呈式を行い、大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学特任助教の池田裕香さんから15人に奨励金30万円、計450万円を贈りました。

がん研究助成奨励金は、がんの予防と治療に役立つ研究や取り組みに従事している個人やグループを助成・奨励するもので、今回



が55回目。若手育成を目的とし、応募資格は満40歳未満の研究者、医療従事者に限っています。26年度は「基礎」「臨床及び疫学」「看護等」の3部門で計95人から研究成果の応募がありました。選考委員13人の審査結果をもとに、2月17日に開かれた選考委員会（委員長＝堀会長）で受賞者15人を選びました。受賞者は今回で延べ1659人、奨励金総額は3億8980万円となりました。

贈呈式では、堀会長が受賞者の皆さんの業績を評価すると共に、今後の活躍に期待します、と挨拶しました＝写真右。続いて受賞者一人一人に、会長から賞状と奨励金が手渡されました＝写真上。

受賞者を代表し、古谷さんは自らの研究内容を紹介し、「がん看護実践を行う看護師が何に困っているか、またそれを同僚・後輩に受け継ぐための障壁が何かを明らかにし、がん看護研修コースの企画・運営に役立てたい。がん看護の質の向上にも寄与することも使命と感じている」と話しました＝写真左。

※なお、この事業はバイエル薬品と大日本住友製薬にご支援をいただいています。（受賞者は2ページに掲載）





平成26年度がん研究助成奨励金 受賞者

(部門別、50音順)

※年齢は平成27年3月末時点

【基礎の部】

氏名	年齢	所属	研究題目	受賞回数
いけだ ゆか 池田 裕香	35	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学 特任助教	マトリセルラータンパク質の発現異常による癌の浸潤・転移機構の解明と治療法の開発	1
おうたに ひでたつ 王谷 英達	37	大阪大学医学部医学系研究科 整形外科教室 医員	骨粗鬆治療薬Teriparatideが骨肉腫細胞株に与える影響	1
こせき じゅん 小関 準	33	大阪大学医学系研究科 特任助教	RNA安定化構造の理論予測システムの確立	1
ないとう ひさみち 内藤 尚道	39	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 助教	血管内皮幹細胞システムを標的とした血管新生抑制療法の開発	1
にしだ なおひろ 西田 尚弘	39	大阪大学大学院消化器癌先進化学療法開発学 寄附講座 助教	マイクロRNAエピジェネティック制御機構の解明とその臨床応用	1
のむら もとなり 野村 元成	37	大阪府立母子保健総合医療センター 小児外科 診療主任	神経芽腫に対する新規細胞免疫療法の開発に関する研究	1

【臨床の部】

氏名	年齢	所属	研究題目	受賞回数
ありた ひでゆき 有田 英之	35	大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科学 特任助教	大規模コホートの遺伝子解析による神経膠腫の新規予後、治療効果予測因子の探索	1
さた ひろし 佐多 弘	37	大阪大学大学院医学系研究科 内科系臨床医学専攻血液・腫瘍内科学 特任助教	多発性骨髄腫の患者特異的プライマーを用いた定量PCR (ASO-PCR) の臨床的意義の解析	1
すぎむらけいじろう 杉村啓二郎	37	大阪府立成人病センター 外科 診療主任	食道癌術前化学療法の感受性予測による個別化治療の開発 新規バイオマーカーであるmicroRNAの発現定量を用いて	1
とみはら ひでお 富原 英生	36	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学 医員、大学院生	膵癌幹細胞をターゲットとした新しい治療展開	1
ふるかわ けんた 古川 健太	34	大阪警察病院 外科 副医長	次世代型末梢循環癌細胞検出法 (F35テロメスキャン) を応用した胃癌・膵癌患者における転移・腹膜再発の機序、治療抵抗性解明とその打破	1
ほそかわ きよひと 細川 清人	39	大阪警察病院 耳鼻咽喉科 医長	甲状腺癌および食道癌術後の声帯麻痺における、声帯運動回復の早期予測因子の同定	1

【看護等の部】

氏名	年齢	所属・職名	研究題目	受賞回数
くらたき よみ 倉田貴代美	29	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 博士前期課程 大学院生 看護師	再発・転移をきたした悪性骨軟部腫瘍患者のケアに対して看護師が抱く困難感と学習ニーズ	1
すぎた ともこ 杉田 智子	39	淀川キリスト教病院 看護部 主任	CLIMB®プログラムの取り組みの効果と今後の課題	1
ふるがい みどり 古谷 緑	39	市立堺病院 看護師	地域がん診療連携拠点病院の看護師が経験するがん看護実践上の困難～“がん看護教育研修コース”を設立するための取り組み～	1

大阪のがん診療拠点病院

国民が安心してがんの診療が受けられるように、国はがん対策基本法の下、各都道府県にがん診療連携拠点病院を指定しています。大阪府はこれまで、都道府県がん診療連携拠点病院として大阪府立成人病センターが、地域がん診療連携拠点病院として府内の大学病院（本院）を含めて各2次医療圏から合計15の病院が指定を受けていますが、本年4月より、八尾市立病院が新たに国指定のがん診療連携拠点病院に加わりました。これとは別に、小児がん拠点病院として大阪市立総合医療センターと大阪府立母子保健総合医療センターが国の指定を受けています。大阪府はさらに、国指定の拠点病院の他に、府指定の大阪府がん診療拠点病院45病院を指定しています。本年は、新たな指定要件に基づいて指定の更新や新規の指定が行われることになっています。詳しくは大阪府のホームページまたは「よくわかる！大阪のがん診療NOW」をご覧ください。（会長・堀 正二）

国指定及び府指定がん診療（連携）拠点病院指定状況

◎：既指定（都道府県拠点病院） ○：既指定（地域拠点病院） ※：新規

二次医療圏	種別		病院名
	国	国(小児)	
豊能	○ ○		大阪大学医学部附属病院 市立豊中病院
三島	○		大阪医科大学附属病院
北河内	○		関西医科大学附属枚方病院
中河内	○ ○※		東大阪市立総合病院 八尾市立病院
南河内	○ ○		近畿大学医学部附属病院 大阪南医療センター
堺市	○ ○		大阪労災病院 市立堺病院
泉州	○	○	市立岸和田市民病院 大阪府立母子保健総合医療センター
大阪市	◎ ○ ○ ○ ○ ○	○	大阪府立成人病センター 大阪市立大学医学部附属病院 大阪市立総合医療センター 大阪赤十字病院 大阪医療センター 府立急性期・総合医療センター

講演会・イベント情報

■ピンクリボンフェスティバル2015（詳細については8月の会報でお知らせします）

ピンクリボンフェスティバルは、乳がんへの関心を高め、検診の受診を促進するために2003年に始まりました。今年の「関西セミナー」では、講師には乳がん、婦人科がんの専門医、腫瘍精神科医を招き、柴門ふみさんにもゲストで出演していただく予定で、多角的な情報提供を目指しています。

◇2015年10月18日（日）13：00開演
◇グランフロント大阪 ナレッジシアター

会員のみなさま

賛助会員継続・会費振り込みのお願い

大阪対がん協会にご協力をいただきありがとうございます。今後ともがん征圧運動にご理解をいただき、2015年度(平成27年度)も会費のご協力をいただきますようお願い申し上げます。同封の払込取扱票をご利用ください。

協会は一昨年8月に公益財団法人に移行しました。公益財団には、これまで以上に財政基盤の安定が求められます。引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

なお、振り込み手数料につきましては、誠に恐縮ですが、ご負担をお願いいたします。

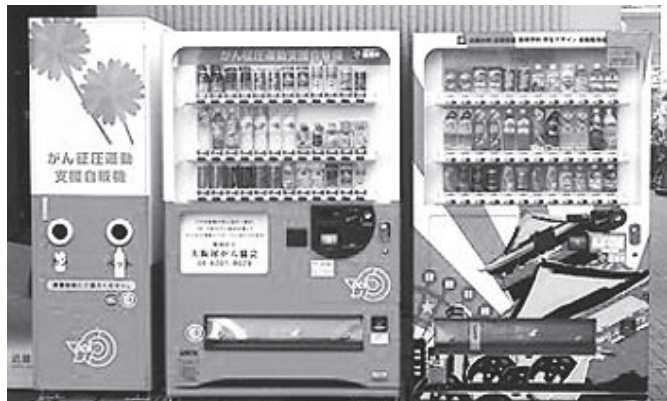
●がん検診サービス券 今年度も全会員に配布

2011年度から会員特典として、がん検診サービス券を発行しています。5年目となる15年度も引き続き、会員の皆様にサービス券=写真=をお送りいたします。詳細については同封の「ご利用方法」をご覧ください。



寄付型清涼飲料水の自動販売機の設置について

大阪対がん協会は広く賛助会員を募集すると同時に、寄付型清涼飲料水の自動販売機の設置を進め、より安定した収入の確保を目指しています。これは清涼飲料水の自販機の売り上げの一部を寄付していただく仕組みです。みなさまのお近くで清涼飲料水の自販機設置の情報がありましたら、大阪対がん協会へご連絡をお願いします。



近畿大学東大阪キャンパス内に設置された寄付型自動販売機

..... 理事会報告

大阪対がん協会は3月10日、理事会を開き2015年度の予算と事業計画を承認しました。

今年度予算額は1888万円で、前年度比73万円減を見込んでいます。支出では、がんの予防とがんに関する知識の普及・啓発活動や研究助成などの公益目的の対がん事業費に1177万円、会員向け事業に162万円、法人の運営に使う管理費には549万円を計上しています。費用に占める公益目的事業の比率は62%となっています。今年度も、協会としてがん予防キャンペーンや講演会や研究支援など公益事業に取り組みます。